

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

南河内地区唯一の夜間定時制高校の意義を踏まえ、地域に根差した教育活動を行い、将来地域を担う人材を育成し、地域と共に歩む学校をめざす。

- 1 働きながら学ぶ生徒をはじめ、多様な生徒一人ひとりに対して、生徒の興味・関心に応じた特色ある教育活動を展開する。
- 2 生徒に基礎・基本の学力を定着させるとともに、自尊感情と自己有用感を高め、志と生活力のある社会人を育成する。
- 3 地域との連携を深め、地域から信頼され必要とされる人材を育成する。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

(1) 生徒の基礎学力を向上させる。

- ア 生徒の学習意欲を高め「わかる授業」を実現するため、全教科・科目において、ICT機器等の活用を推進し、授業内容・方法の改善を進める。
- イ 生徒の基礎学力の定着をめざした、授業方法の開発・実践を行う。
- ウ 教員の更なる授業力向上のため、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを推進する。
- エ 新型コロナウイルス感染症に係る対応として、広報・情報委員会を中心とし、ICT環境の校内整備やWi-Fi環境、SNS環境等を持たない生徒の対応を行う。

(2) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じた特色ある教育課程の充実を図る。

- ア 生徒の実態に応じた、基礎的・基本的な学力の定着をめざした、教育課程の充実を図る。
- イ 特別非常勤講師等の外部講師を積極的に活用し、高度な技能・技術など本物に触れる教育を実践する。

※ 学校教育自己診断(生徒)における「わかりやすい授業が多い」の肯定的回答(R1:78.9%、R2:71.9%、R3:64.1%)を令和6年度には80%以上にする。

## 2 生徒の規律・規範の確立と豊かな心を育む

(1) 志や夢を育み豊かな人間性を涵養する。

- ア 「農園実習」や「ボランティア活動」を通して、豊かな人間性や自尊感情、自己有用感を育む。
- イ 「寄り添う教育」を基幹としながらも、校則の遵守や授業規律の確立など、生徒の規範意識の醸成に取り組む。
- ウ 生徒の規範意識の向上と地域貢献のため、学校周辺の清掃活動「クリーンキャンペーン」に取り組む。

(2) キャリア教育の充実、資格取得の充実を図る。

- ア 教育活動全体を通じて入学時から卒業までを見据えた進路指導を行い、外部機関等とも連携しながら、正規雇用をめざした就職支援体制を整える。
  - イ 実践的な職業教育を通じて、社会人としての資質や能力を身につけさせるとともに、進路につながる資格取得のための支援を充実させる。
- ※ 進学希望者の進学率(R1:77.8%、R2:50.0%、R3:100%)及び、就職希望者の内定率(R1:72.4%、R2:76.0%、R3:100%)ともに令和6年度まで100%を維持する。

(3) 中途退学・不登校生徒の減少に取り組む。

- ア 中高連携・人間関係や居場所づくり・基礎学力養成講座等を通じて、中途退学・不登校生徒を減少させるための取組みを行う。
  - イ 「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、生徒支援(中退防止)コーディネーターを中心としたプロジェクトチームによる、様々な課題を抱える生徒への支援体制づくりや教育相談の機能を充実させ、生徒が安心して学校に通える環境づくりを行う。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における、学校に対する満足度(R1:74.4%、R2:74.3%、R3:71.1%)を、令和6年度には肯定的回答を80%以上にする。
- ※ 教育相談体制をさらに充実させ、生徒向け学校教育自己診断における「担任以外に相談することができる先生がいる」(R1:63.1%、R2:59.4%、R3:64.1%)を、令和6年度には70%に引き上げる。

## 3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり

(1) 生徒たちの安心と安全のための取組みの充実を図る。

- ア 校内の教育相談体制を充実させ、生徒が気軽に相談できる雰囲気づくりに努める。
- イ 通学時の安全確保のため、自動車・バイク・自転車通学生徒に対して、交通安全指導を行う。
- ウ 大麻・覚せい剤等の薬物乱用防止教育を、教育活動全体を通じて取り組む。
- エ 保健・安全衛生に関して啓発を行い、感染症や熱中症、食物アレルギー等に係る予防や事故防止に努める。

(2) 保護者や地域との連携を密にし、地域から信頼され必要とされる学校づくりを推進する。

- ア 長期欠席等の生徒の状況を家庭に連絡し、保護者の協力を得るなど、家庭と連携した生徒の出席状況の改善を行う。
  - イ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、情報交換等を行い、中学校との連携を深め、生徒理解や生徒支援の充実を図る。
  - ウ 近隣幼稚園等の園児や地域の方々を、農園の作物収穫へ招待し地域との連携を深める。また「クリーンキャンペーン」等の取組みを通じて、地域と共に歩む学校づくりを推進する。
  - エ 学び直しを希望する編転入生を受け入れ、卒業まで導くサポートを行い、地域の「学び」のセーフティネットとしての定時制高校の役割を果たす。
  - オ 生徒が安心して学校生活を送るための合理的な配慮を推進し、「ともに学び、ともに育つ」学校づくりをめざす。
- ※ 保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度(R1:80.7%、R2:81.0%、R3:81.3%)を、令和6年度には85%以上をめざす。

## 4 学校運営の活性化と教職員の資質向上

(1) 学校運営の活性化を図る。

- ア 准校長のリーダーシップのもと、首席を中心に各分掌・学年等と密接にコミュニケーションを取りながら、PDCAサイクルによる学校経営を推進する。
- イ 分掌や委員会等の活性化と効率化を図り、毎日の職員連絡会も活用しながら生徒の状況や配慮事項等の情報共有を行い、速やかな課題解決に努める。
- ウ 働き方改革を推進するため、「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」に沿って、会議時間の短縮や内容の精査のために事前に資料配付するなど、意識改革を進めていく。
- エ 学校経営の状況を、学校運営協議会等で公表し学校運営に資する。

(2) 教職員の資質向上を図る。

- ア 日常的なOJTの推進、校内研修の活性化を行う。
- イ ベテランの教職員の協力を得ながら、ミドルリーダーの育成、教職経験の少ない教職員の資質向上を図り、次世代の校内運営を担う人材の育成を行う。

## 府立藤井寺工科高等学校 定時制の課程

※ 校内研修・報告会・連絡会等を合わせて年間 10 回以上実施(R1:4回、R2:4回、R3:11 回)を令和6年度まで維持し、人材の育成や情報の共有などを図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 3 年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)基礎学力向上 ア 生徒の学習意欲を高める「わかる授業」の実現 イ 生徒の基礎学力の定着 ウ 教員の更なる授業力の向上	ア・生徒の学習意欲を高め「わかる授業」を実現するため、全教科・科目において研究授業を実施する。またICT機器活用研修を行い、授業内容・方法の改善を進める。 イ・生徒の基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善の一環として、学び直しを目的とし、反復練習を主としたモジュール授業(理、数、国、英)を1年生中心に継続・拡大する。 ウ・教員の更なる授業力向上のため、ユニバーサルマナーの講習に参加し検定を受験する。ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを推進する。	ア・生徒向け学校教育自己診断における「わかりやすい授業が多い」を、70.0%以上に引き上げる。 [64.1%] イ・4月の診断テスト結果より1月実施の診断テストでの正答率1.70倍をめざす。[1.68倍] ウ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた、授業づくりの職員研修を実施する。[年1回]	
	(2)特色ある教育課程の充実 イ 特別非常勤講師等の外部講師の積極的活用、本物に触れる教育	イ・特別非常勤講師や高度熟練技能者等の外部講師を積極的に活用し、生徒の興味・関心が深まる授業づくりや、資格取得指導・進路講話など、生徒のキャリア意識が高まる本物に触れる教育を実践する。	イ・外部講師の実践による指導を活用し、300h以上の授業に関わってもらう。[342h]	
2 生徒の規律・規範の確立と豊かな心をはぐくむ	(1)豊かな人間性を涵養する ア 「農園実習」や「ボランティア活動」を通しての教育 イ 「寄り添う教育」を基幹とし、生徒の規範意識の醸成 ウ 校種間連携での豊かな人間性育成	ア・「農園実習」や「ボランティア活動」(クリーンキャンペーン等)を通して、豊かな人間性、自尊感情や自己有用感を育み、学校生活に前向きに取り組ませる。 ・クリーンキャンペーンについては、ボランティアの生徒だけでなく、前後期に各1回ずつLHRや行事に組み込み、より多くの生徒達を巻き込み学校全体の活動とする。 イ・授業規律(禁止事項…携帯電話やスマートホンの使用、立ち歩き・私語・その他人に迷惑をかける行為等)の確立と校則の遵守。 ①全教職員による声掛け ②毎時間の校内巡回や教室入り込み及び廊下からの観察 ③登校時～下校時までの立ち番係による観察及び声掛け指導 ④担任・生活指導部等への報告。 ウ・支援学校等との共同学習の実践を通じて、他者を理解し思いやる心や自身を大切にす姿勢を身につけさせる。	ア・ボランティア参加者を在籍数の10%以上を確保する。[18.5%] 「クリーンキャンペーン」を年間5回実施、継続する。[4回] ・LHRや行事を利用して、前後期に各1回ずつ組み込む。[0回] イ・生徒向け学校教育自己診断における「学校生活について、先生の指導には納得できる」を75%以上にする。[72.9%] ・保護者向け学校教育自己診断における「学校の生徒指導の方針に共感できる」の80%以上を維持する。[87.7%] ウ・年2回の支援学校との共同学習の再開継続。[0回]	
	(2)キャリア教育・資格取得の充実 ア 入学時から進路指導を実施・就職支援体制整備 イ 進路につながる資格取得のための支援の充実	ア・職場体験・学校見学や面接指導等、入学から卒業までを見据えた進路指導計画のもと、生徒の進路実現の支援を充実させる。 イ・進路につながる資格取得の推進を通して、キャリア教育の充実を図る。放課後や短縮授業期間、夏休み等を使い講習を行う。	ア・進学希望者進学率[100%]、就職希望者内定率[100%]。希望者全員合格100%をめざす。 イ・資格取得数を、年間取得総数(延べ数)を在籍者数の18.0%以上をめざす。[16.1%]	
	(3)中途退学・不登校			

## 府立藤井寺工科高等学校 定時制の課程

	<p>生徒減少への取組み</p> <p>ア 中途退学・不登校生徒を減少させるための取組みを行う</p> <p>イ 「課題を抱える生徒フォローアップ事業」の活用</p>	<p>ア・中高連携・人間関係・居場所づくり・基礎学力講座等を通じ、中途退学・不登校生徒を減少させることに重点をおき、家庭はもちろん就業先雇用主とも連携を深めながら、授業への出席率を向上させる。</p> <p>イ・「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、支援教育コーディネーターを中心としたプロジェクトチームによる支援体制づくりや教育相談の機能を充実させ、生徒が安心して学校に通える環境づくりを行う。</p>	<p>ア・中途退学率を 10.0% 以下にする。[8.5%](R4.03.18 現在)</p> <p>イ・SSWやSCも含めたケース会議やコア会議を昨年度と同程度の回数を実施する。 [43 回](R4.3.18 現在)</p>	
3	<p>(1)安心と安全のための取組み</p> <p>ア 校内の教育相談体制の充実</p> <p>イ 交通安全指導</p> <p>ウ 覚せい剤・大麻等の薬物乱用防止教育の実施</p> <p>(2)家庭・地域との連携、地域から信頼され必要とされる学校づくり</p> <p>ア 家庭との連携による生徒の出席状況の改善</p> <p>イ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、生徒理解や生徒支援の充実を図る</p> <p>ウ 近隣幼稚園等の園児・地域の方々等、地域と共に歩む学校づくり</p> <p>オ 合理的な配慮の推進「ともに学び、ともに育つ」学校づくりをめざす</p>	<p>ア・多様な生徒・保護者の相談や需要数の増加を受け、より一層教育相談体制の充実を図り、SC(スクールカウンセラー)・SSW(スクールソーシャルワーカー)の積極的活用を図る。</p> <p>イ・通学時の安全確保のため、自動車・バイク・自転車通学者に対して交通安全指導を行う。</p> <p>ウ・薬物乱用防止教室の実施、生徒・保護者への啓発等、充実を図る。</p> <p>ア・保護者懇談会の充実や学年通信の発行、家庭訪問等、保護者と密に連絡を取り合い連携を深める。</p> <p>イ・在籍生徒の出身中学校を訪問し、情報交換等を行い、生徒理解や生徒支援のための中学校との連携を深めるとともに、本校の教育活動の広報を行う。</p> <p>ウ・近隣の幼稚園等の園児や地域の方々を、農園の作物収穫へ招待し、地域との連携を継続し本校の教育活動への協力と理解を深める。</p> <p>オ・生徒が安心して学校生活を送れるよう、SC及びSSWによる合理的配慮を推進するための研修会を実施する。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「担任以外に相談することができる先生がいる」を 66%に引き上げる。[64.1%]</p> <p>イ・交通安全指導を年間3回以上開催。[4回]</p> <p>ウ・薬物乱用防止教室を年間2回開催する。[2回]</p> <p>ア・保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度を 83%以上にする。[81.3%]</p> <p>イ・出身中学校全校訪問を維持する。 [42/42 校]</p> <p>ウ・年間に 10 団体程度を農園に招待する。[4団体]</p> <p>オ・合理的配慮に関する研修会を2回行う。[2回]</p>	
4	<p>(1)学校運営の活性化を図る</p> <p>ア 学校経営の推進</p> <p>イ 分掌や委員会等の活性化、生徒の情報共有、速やかな課題解決</p> <p>ウ 働き方改革の推進</p> <p>エ 学校経営の状況を、学校運営協議会等で公表し学校運営に資する</p> <p>(2)教職員の資質向上を図る</p> <p>ア 日常的なOJTの推進と校内研修の</p>	<p>ア・経営戦略会議(准校長・教頭・首席)を定期的開催、また首席を中心とし分掌長会議等を通じてコミュニケーションを図り、経営計画の進捗状況について情報を共有し検証しながら、PDCAサイクルによる学校経営を推進する。</p> <p>イ・分掌や委員会等の活性化と効率化を図り、毎日の職員連絡会も活用しながら生徒の状況や配慮事項等の情報共有を定期的に行い、速やかに課題解決に努める。</p> <p>ウ・まずは「定時退庁」に努め、週1回の「全校一斉退庁日」及び「ノークラブデー」の確認、「学校閉庁日」の設定の意義など、教職員一人ひとりの意識改革を進める。 また、会議の回数減や時間短縮などにつながる取組みを実践する。</p> <p>エ・学校教育自己診断等、教育活動やその他の学校経営の状況を、学校運営協議会やホームページで公表し学校運営に資する。</p> <p>ア・日常的なOJTの推進を図るため、教職経験を踏まえ職員室の机配置を工夫する。また職員会議等</p>	<p>ア・経営戦略会議年間 40 回以上実施[45 回]</p> <p>・教員向け学校教育自己診断における学校組織についての満足度(教職員 39~54 番)を 80%以上にする。[76.4%]</p> <p>イ・教員向け学校教育自己診断における「本校の教育活動について、教員間で日常的に話し合っている」を 83%以上にする。[80.8%]。</p> <p>ウ・ストレスチェック総合リスク[63]を、維持する。</p> <p>エ・教員向け学校教育自己診断における「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」を 79%以上に引き上げる。 [76.9%]</p> <p>ア・外部研修会へ積極的に推薦し校内研修・報告会・連絡会を合わせ</p>	

## 府立藤井寺工科高等学校 定時制の課程

<p>活性化</p> <p>イ 教職員の資質向上及び校内運営を担う人材の育成</p>	<p>を利用した校内研修の活性化を図る。ただし、働き方改革を視野に入れ、生徒との触れ合い・教材研究・生徒指導等の時間確保のため、職員会議後を利用し、その都度研修会・報告会・連絡会を短時間で簡潔に実施し、全教員で共有する。</p> <p>イ・ベテランの教職員の協力を得、ミドルリーダーの育成や、経験の少ない教職員の資質向上を図り、次世代の校内運営を担う人材の育成を行う。</p>	<p>て、10回以上実施する。[11回]</p> <p>・教員向け学校教育自己診断における「研修に参加した成果を他の教員に伝える機会が設けられている。」を60%以上に引き上げる。[50.0%]</p> <p>イ・教員向け学校教育自己診断における①「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談しあえるような職場の人間関係がある。」[92.4%]、②「教職員が色々なことに意欲的に取り組める環境にある。」[83.4%]、の平均を90.0%以上にする。[87.9%]。</p>	
--	--	--	--